






胃がんリスク層別化検査(ABC検診)

胃がんには、胃粘膜の萎縮が大きく関与するものがあることがわかっています。胃がんリスク層別化検査 (ABC検診) は「ピロリ菌感染の有無」と「ペプシノゲン検査 (胃粘膜の萎縮度を調べる検査)」を組み合わせ、胃がんになるリスクを分類する検査です。A群⇒B群⇒C群⇒D群と萎縮が進むにつれて、胃がんの危険率も上がります。胃切除後の方、胃、食道、十二指腸、腎臓の病気で治療中の方は正しい結果が得られない可能性があります。主治医にご相談ください。

ABC検診の分類

	A 群	B 群	C 群	D 群
ピロリ菌	陰性 (-)	陽性 (+)	陽性 (+)	陰性 (-)
ペプシノゲン値	陰性 (-)	陰性 (-)	陽性 (+)	陽性 (+)
胃粘膜の状態	 健康	 少し弱っている	 かなり弱っている	 非常に弱っている
胃の健康度	健康的な胃粘膜です。 胃粘膜萎縮の可能性は低い です。	胃潰瘍に注意が必要です。 胃がんの発症リスクが 少なからずあります。	胃粘膜萎縮が進んでいます。 胃がんになりやすい状態 です。	胃粘膜萎縮が進み、 ピロリ菌が住めなくなり 退却した状態です。 胃がんの可能性もあります。
胃がんの危険度	<div style="display: flex; align-items: center;"> 低  高 </div>			